

1. 信用金庫のモニタリングについて

- 今事務年度は、金融行政方針にあるとおり、協同組織金融機関の持続可能なビジネスモデルの構築に当たり、個々の金融機関の取組みのみならず、中央機関の役割が重要と考え、信金中金と対話を続けてきた。
- これまでの対話において、有価証券運用やそのリスク管理の高度化、バックヤード業務の共通化等による経費削減、専門人材の派遣など、信金中金が個々の信用金庫の取組みをサポートしている現状と今後の取組方針を確認した。
- 特に、有価証券運用やそのリスク管理の高度化について、信金中金ではこれまで、各金庫に対して、有価証券のポートフォリオ分析とその結果を踏まえた意見交換や、運用に関する相談受付などのサポートを行ってきたが、これに加え、各金庫の状況に応じた運用計画の策定支援やリスク管理態勢の整備に係る支援など、より踏み込んだサポートを行うための組織を新たに立ち上げたと聞いている。
- 現在、試行段階のこの取組みについては、当庁としても信用金庫の有価証券運用やそのリスク管理について重大な関心を持っているため、今後具体的な内容を注視していく。
- 信用金庫においては、低い預貸率に起因して、本業収益が低迷している中、有価証券運用収益に多くを期待する金庫も相当数に上ると考える。
- 有価証券運用の状況については、長期債での運用拡大などから、円債の金利リスク量は自己資本対比でも高まっているほか、近時では投資信託や外国債券にシフトする動きも見られる。
- 金融庁としては、有価証券運用やそのリスク管理の高度化が必要と考え、現在、財務局の検査や総合的なヒアリングなどに、有価証券運用モニタリングの専門チームのメンバーを派遣し、詳細な実態把握と意

見交換に参加している。

- 把握した課題については、金庫と認識を共有した上で、今後、当局のモニタリングにおいて継続的にフォローしていく。
- 各金庫共通の課題が見られた場合には、有価証券運用やそのリスク管理の高度化に向けて、信金中金が何らかの役割を担うことが可能か、信金中金と更に議論していきたい。
- ちなみに、地域銀行の有価証券に関するモニタリングにおいて、目先の収益確保として
 - ・ 中期経営計画に掲げた配当額、配当性向を達成するため、本業利益で賄えない分を、有価証券運用益で補おうとして、経営体力に比べて過大なリスクテイクをしている先
 - ・ 有価証券含み損は、収益性の低い運用資産の固定化、将来の期間収益の減少、運用の自由度低下といった運用効率の悪化や、リスクテイク力の低下につながるにもかかわらず、その処理を先送りしている先が見られる。
- この傾向は、本業利益が不振な地域銀行で顕著。市場環境が想定に反する方向に動く場合には、経営体力が著しく毀損され、将来に亘って健全性が維持されなくなる可能性が一段と高まることになるため、特に留意が必要と考えており、信用金庫業界においても同様のことを懸念している。

(以上)